

【2022年卒 インターンシップ・就職活動準備の現状に関する調査】 Webと対面で、インターンシップ満足度に差

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）の研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、「2022年卒 インターンシップ・就職活動準備の現状に関する調査」を実施しました。2020年9月時点の調査結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

Webと対面で満足度に差。Webでも職場のリアルが伝わるコンテンツの工夫が必要



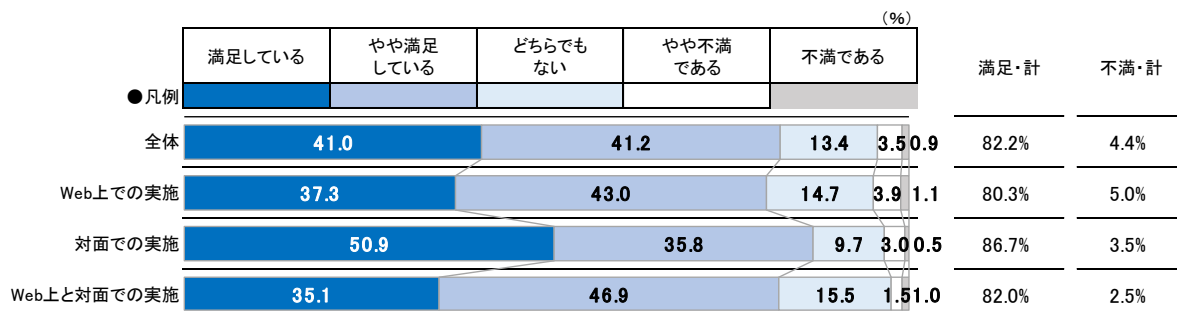
所長 増本 全

今回は、2022年卒の学生の「インターンシップについての満足度」を調査しました。9月時点でインターンシップの参加社数は平均4.03社でした。インターンシップ参加者に、Web開催、対面開催のインターンシップの平均参加社数を聴取したところ、Webが3.19社、対面が1.33社で、Webのインターンシップが対面のインターンシップの参加社数を上回る結果となりました。そのような中でWebのインターンシップと対面のインターンシップの満足度を聞くと差が見られました。「満足している」「やや満足している」を合計した「満足・計」では差が見られないものの、「満足している」では対面が50.9%、Webが37.3%と差があります。この差はコンテンツの違いからきています。プログラム内容別に実施形態を見ると、対面は、「職場や工場の見学」「仕事をしている社員に同席あるいは同行する」といった、実際の仕事や職場が見られるものが多いのに対して、Webは「業種や企業の説明を受ける」「直接社員に質問できる質問会など」が多くなっています。インターンシップでは、学生自身もできるだけ職場や仕事の様子を知りたいと考えています。学生のコメントを見ると「もっと詳しく企業のことを知りたい」「可能であれば、会社見学も含めたインターンシップをしたい」というものが見られます。Web、対面など実施形態に制約がある状況ではありますが、どのようにしたらWebで学生に職場のリアルを伝えられるか、工夫することが今後のインターンシップではより重要になっていきそうです。

* インターンシップには1日の仕事体験型も含む

■2022年卒）インターンシップ実施形態別満足度

（大学生・インターンシップ経験者／複数回答・インターンシップ参加企業最大5社分についてそれぞれ聴取し合計）



本件に関する
お問合せ先

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL：03-3211-7117 Mail：kouho@waku-2.com

調査概要

■2022年卒 インターンシップ・就職活動準備に関する調査

調査目的：2022年卒学生のインターンシップ・就職活動準備の現状を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：『リクナビ2022』会員・インテージ社のモニターより、2022年3月卒業予定の大学生および大学院生

調査期間：2020年9月18日～25日

回答者数：大学生 2,043人 大学院生 291人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

■2021年卒 2020年6月TOPIC調査

調査目的：大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,198人（内訳：大学生3,325人/大学院生873人）

調査期間：2020年6月12日～19日

回答者数：大学生 915人 大学院生 377人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

■2021年卒 2020年3月TOPIC調査

調査目的：大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法：インターネット調査

調査対象：2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生1,706人（内訳：大学生1,317人/大学院生389人）

調査期間：2020年3月19日～26日

回答者数：大学生 327人 大学院生 143人

集計方法：大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近付けるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

※リクナビ：株式会社リクルートキャリアが運営している、就職活動を支援するサイト

<https://job.rikunabi.com/2022/>

《調査結果を見る際の注意点》

- ・%を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値と計算値が一致しない場合がある
- ・データは無回答サンプルを除いて集計している
- ・2022年卒業を「2022年卒」と表記
- ・2021年卒業を「2021年卒」と表記

《調査の集計について》

・「2020年9月時点での進路の志望状況」において、①～⑥と回答した者を「就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む」として集計する。

■2020年9月時点での進路の志望状況（大学生／複数回答）

	n数	① まだ 志望進路を 決めていない	② 民間企業に 就職したい	③ 公務員として 就職したい	④ 教員として 就職したい	⑤ 医師・ 歯科医師・ 看護師として 就職したい	⑥ 公務員・ 教員・医師・ 歯科医師・ 看護師以外 で民間企業で はない組織・ 団体に 就職したい	⑦ 起業したい	⑧ 大学院等へ 進学したい	⑨ 留学したい	⑩ 留年するので 卒業しない	⑪ その他
卒業後の 志望進路	1901	17.6%	63.8%	24.9%	6.8%	4.6%	7.0%	4.1%	7.1%	3.5%	0.4%	0.6%

活動実施者の70.9%が、Webのインターンシップに参加

学生のインターンシップ参加割合は就職意向者(まだ志望進路を決めていない含む)全体のうち46.8%であった。
またWebのインターンシップに参加した学生は活動実施者全体のうち70.9%であった。

■2022年卒) 活動実施の割合

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む／単一回答)

	活動実施者		活動予定者	活動予定なし
	インターンシップ 参加あり	インターンシップ 参加なし		
●凡例				
インターンシップの参加割合	46.8	13.1	34.4	5.6

■2022年卒) インターンシップの応募状況、参加状況

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・活動実施者／数値回答)

	n数	インターンシップ応募			インターンシップ参加		
		割合	平均数		割合	平均数	
大学生全体	1140	86.6 %	8.12 社		78.1 %	4.03 社	
文系	823	86.2 %	8.80 社		77.7 %	4.11 社	
理系	318	87.6 %	6.37 社		79.2 %	3.85 社	

■2022年卒) 実施形態別インターンシップの参加状況

(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・活動実施者／数値回答)

	n数	Web参加			対面参加		
		割合	平均数		割合	平均数	
大学生全体	1140	70.9 %	3.19 社		51.3 %	1.33 社	
文系	823	70.4 %	3.36 社		51.2 %	1.33 社	
理系	318	72.1 %	2.76 社		51.3 %	1.32 社	

■2022年卒) インターンシップ実施希望形態

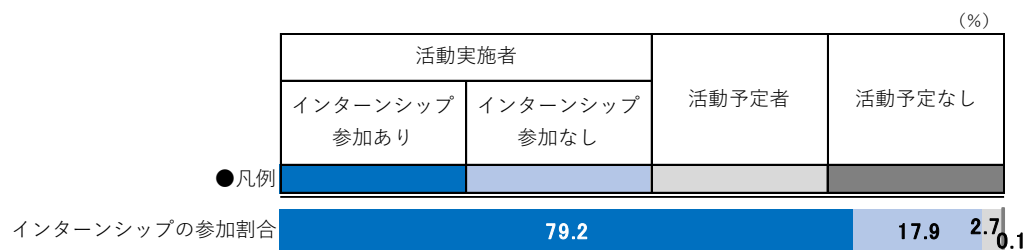
(大学生・就職意向者 まだ志望進路を決めていない含む・活動実施者／単一回答)

	対面希望	どちらかという と対面希望	どちらともい えない	どちらかという とWeb希望	Web希望	対面 希望・計	Web希望・ 計
●凡例							
大学生全体	25.2	36.5	20.1	12.2	6.0	61.7%	18.2%
文系	24.5	37.2	20.3	12.1	5.9	61.7%	18.0%
理系	27.0	34.6	19.6	12.4	6.4	61.6%	18.8%

(参考) 2021年卒 活動実施の割合、インターンシップの応募・参加状況、実施希望形態

■2021年卒) 2020年3月1日時点 活動実施の割合

(大学生・就職志望者／単一回答)



■2021年卒) 2019年10月～2020年3月におけるインターンシップの応募状況、参加状況

(大学生・就職志望者／数値回答)

	n数	インターンシップ応募		インターンシップ参加	
		割合	平均数	割合	平均数
大学生全体	290	83.2 %	6.09 社	80.8 %	4.64 社
文系	204	81.0 %	6.22 社	79.2 %	4.64 社
理系	86	88.3 %	5.81 社	84.4 %	4.63 社

■2021年卒) 2020年6月時点 実施形態別インターンシップの参加状況

(大学生・就職志望者／数値回答)

	n数	Web参加		対面参加	
		割合	平均数	割合	平均数
大学生全体	571	9.7 %	1.57 社	92.5 %	7.14 社
文系	385	9.7 %	1.67 社	93.3 %	7.64 社
理系	186	9.7 %	1.37 社	90.8 %	6.08 社

■2021年卒) 2020年6月時点 インターンシップ実施希望形態

(大学生・就職志望者／単一回答)

(%)

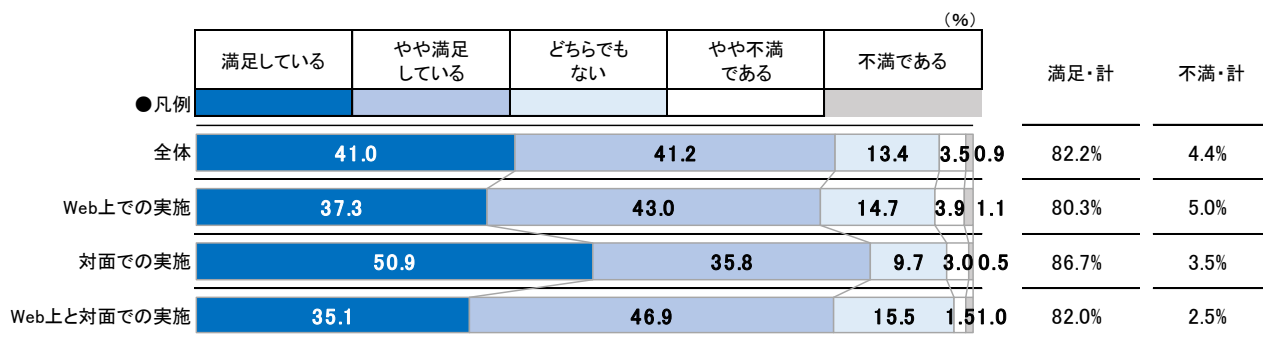
	対面希望	どちらかという 対面希望	どちらともい えない	どちらかという Web希望	Web希望	対面 希望・計	Web 希望・計
●凡例							
大学生全体	54.6		24.9	12.2	4.43.9	79.5%	8.3%
文系	54.4		26.9	11.1	3.83.8	81.3%	7.6%
理系	55.1		20.2	14.6	5.94.2	75.3%	10.1%

Webで実施されたプログラムは「業種や企業の説明を受ける」が最多

Webで実施されたインターンシッププログラム内容を聴取すると、高いものから順に「業種や企業の説明を受ける」、「直接社員に質問できる質問会など」、「新規事業についてワークやディスカッションなどをする」であった

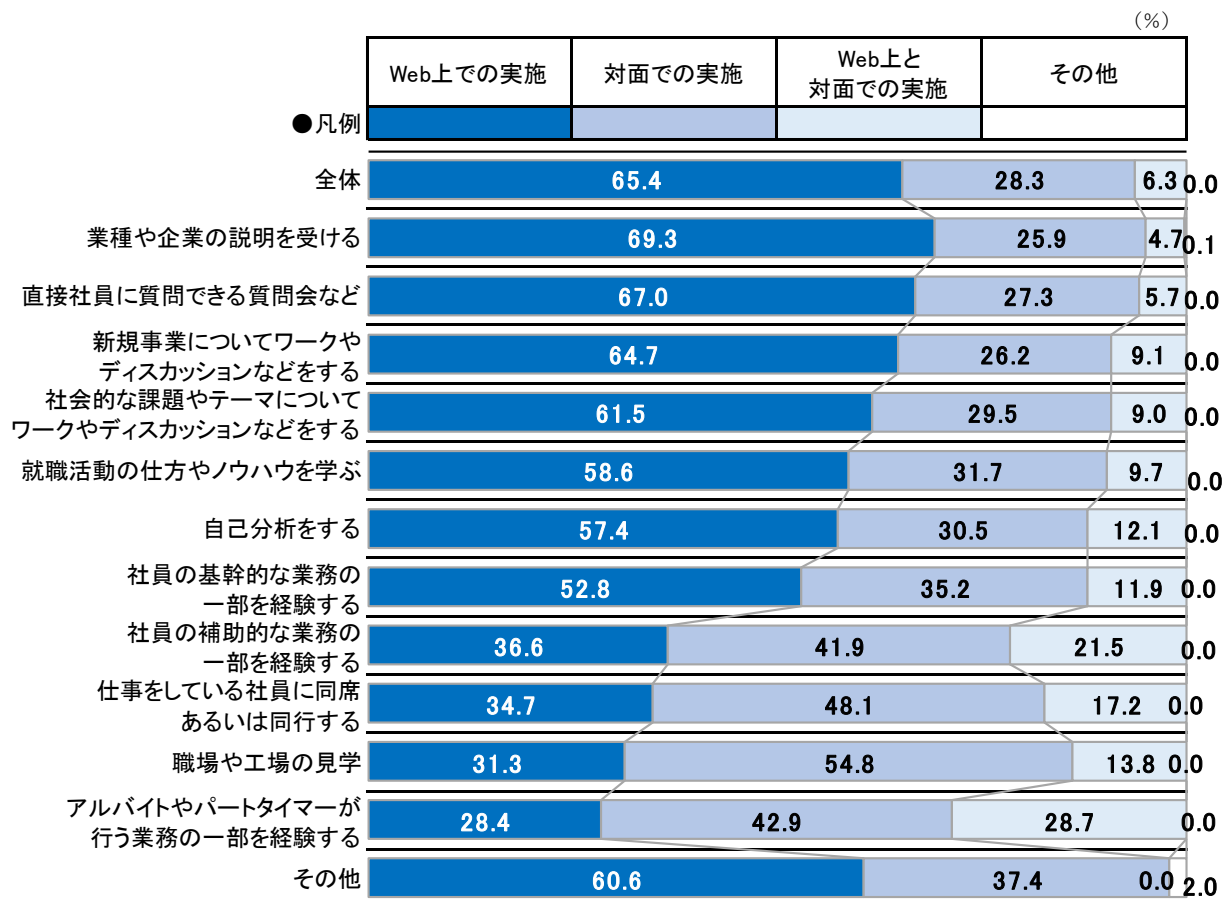
■【再掲】2022年卒）インターンシップ実施形態別満足度

（大学生・インターンシップ経験者／複数回答・インターンシップ参加企業最大5社分についてそれぞれ聴取し合計）



■2022年卒）インターンシッププログラム内容別実施形態

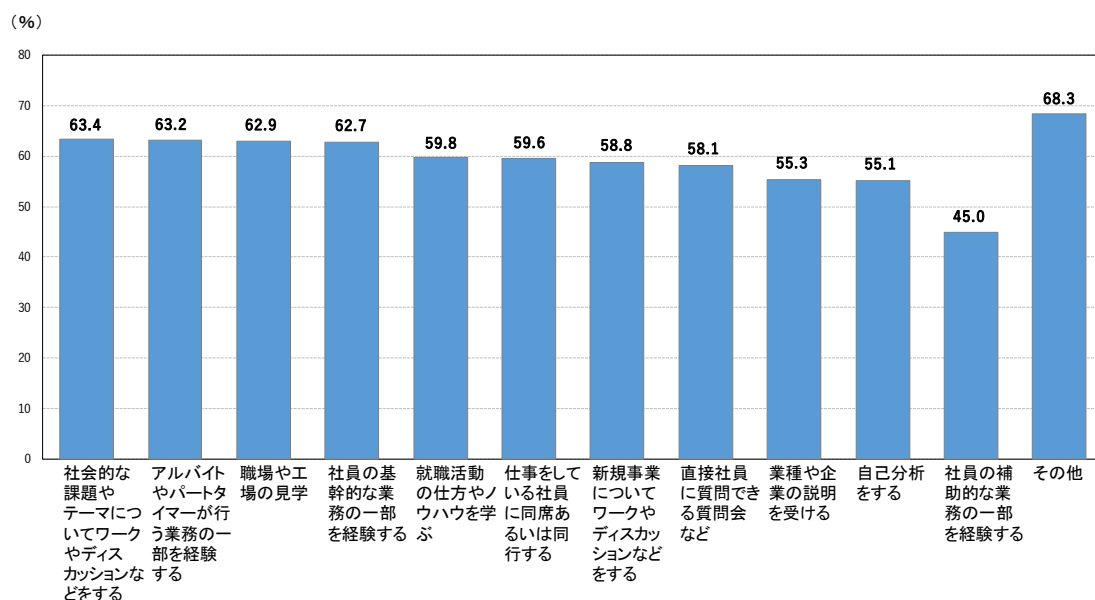
（大学生・インターンシップ経験者／複数回答・インターンシップ参加企業最大5社分についてそれぞれ聴取し合計）



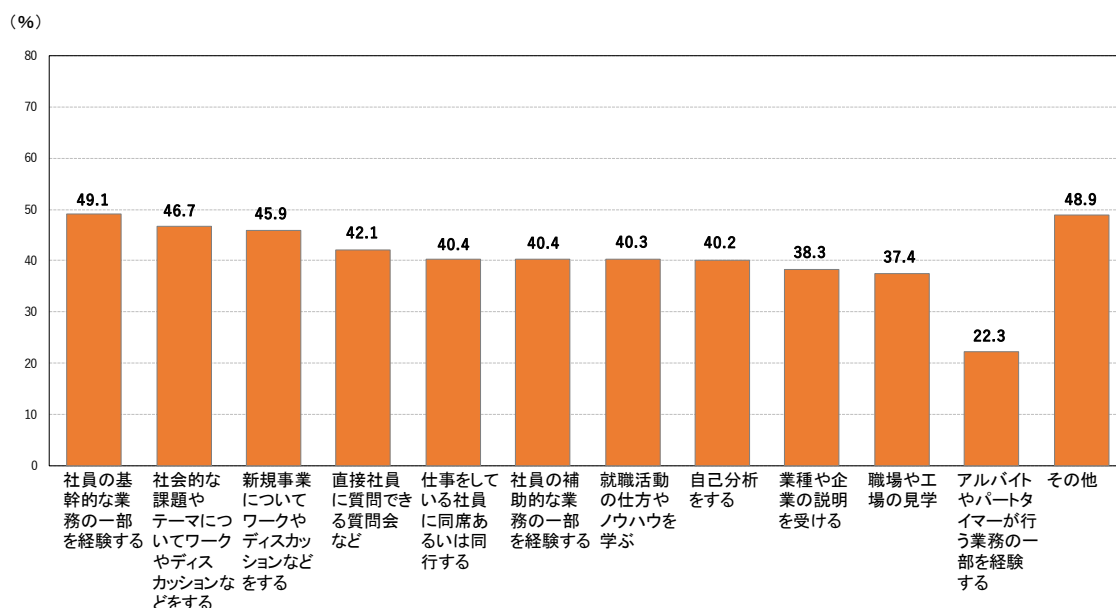
インターンシッププログラムはディスカッションや業務の一部を経験する内容で満足度が高い

参加したインターンシッププログラム内容別に、「満足している」「やや満足している」「どちらでもない」「やや不満である」「不満である」を聴取すると、「満足している」の回答割合は、対面では「社会的な課題やテーマについてワークやディスカッションなどをする」が高く、Web開催では「社員の基幹的な業務の一部を経験する」が高かった。

■2022年卒）対面開催インターンシッププログラム内容別満足度「満足している」回答割合
（大学生・インターンシップ経験者／複数回答・インターンシップ参加企業最大5社分についてそれぞれ聴取し合計）



■2022年卒）Web開催インターンシッププログラム内容別満足度「満足している」回答割合
（大学生・インターンシップ経験者／複数回答・インターンシップ参加企業最大5社分についてそれぞれ聴取し合計）



インターンシップは会社のリアルを伝えられるかがポイント

インターンシップ参加者に、インターンシップに対する感想・考えを聴取すると「オンライン上で社内ツアーがあると嬉しい」や「もっと詳しく会社のことを知りたい」という要望や、「実際に仕事として携わるであろうことを体験させてもらえることは将来がイメージしやすくありがたい」といった声が聞かれた。

■インターンシップに対する感想・考え

(大学生・インターンシップ参加者／自由回答)

コメント	文理・性別	インターン シップ (Web) 参加件数	インターン シップ (対面) 参加件数
内容は濃いけれどオンラインだと1日とか2日なので物足りない。	理系女性	4	1
可能であれば、会社見学も含めたインターンシップをしたい。	理系男性	1	0
オンライン式だと意思表示が難しく、やりとりがしにくいと感じた。	文系女性	2	1
オンラインによって気軽に参加できるようになったため、できるだけ多くの企業に応募しようと思い、エントリーをしたが、ほとんど落とされた。	文系女性	5	1
オンラインでやるなら、ディスカッションやグループワークはスムーズに進まずやりづらい。オンライン上で社内ツアーとかがあったと嬉しい。	文系女性	2	1
専攻ごとに分けて学生を集めていた企業のもののほうが理解がしやすかったので今後はそういった企業のインターンを中心に参加したい。専門外の内容でグループワークを実施されると積極的に参加しづらい。	理系男性	4	0
画面やマイクがオンのインターンシップは、自分のスキルをアップする上で非常にいいと思う。初対面の人と一緒にワークに取り組むのはいい経験であると感じる。	文系男性	4	0
実際に仕事として携わるであろうことを体験させてもらえることは、将来がイメージしやすくありがたい。ミスマッチを防ぐことができると感じた。	文系女性	8	2
オンラインだと質問しやすく感じました。	文系女性	5	0
もっと詳しく会社のことを知りたいと思った。質問は対面よりもしやすい気がしたので、すんなり質問できた。	文系女性	2	0
社員はもちろんのこと、内々定者の登壇があるとより職場の雰囲気が伝わった。	文系男性	1	1